

製品名: SIRT1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80879**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間、マウス、ラット、ウサギ、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	120kDa

抗原情報

遺伝子名	SIRT1
別名	SIR2L1; SIRT1
遺伝子 ID	23411.0
SwissProt ID	Q96EB6
免疫原	大腸菌で発現したヒト SIRT1 の精製された組み換え断片。

背景

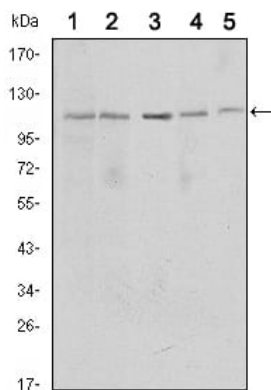
酵母の Sir2 タンパク質は、ヒストン H3 および H4 の脱アセチル化を介して転写サイレンシングプロセスで機能することが知られています。最近発見された Sir2 のヒト相同タンパク質である SIRT1 は、腫瘍抑制タンパク質 p53 と関連することがわかっています。

す。SIRT1は、前骨髄球性白血病タンパク質 (PML) 核小体または発癌性 Ras のアップレギュレーションに応答して、C末端 Lys382 残基を特異的に標的として p53 に結合し、脱アセチル化します。p53 SIRT1 の脱アセチル化は、p53 を介した転写を負に制御し、DNA 損傷やストレスによって引き起こされる細胞老化やアポトーシスを防ぐことが示されています。SIRT1 は酵母 Sir2p と最も相同性が近く、胎児および成人の組織で広く発現し、心臓、脳、骨格筋で高く、肺と胎盤で低く発現しています。SIRT1 は、特にリジン 382 で p53 に結合して脱アセチル化することにより、p53 依存性 DNA 損傷応答経路を制御します。

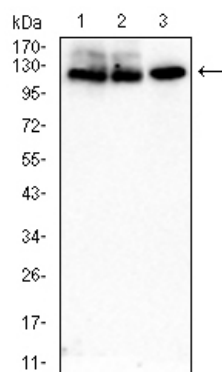
研究分野

アポトーシス

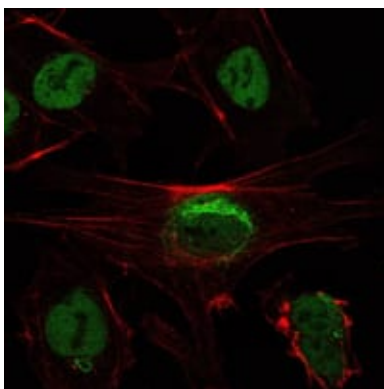
画像データ



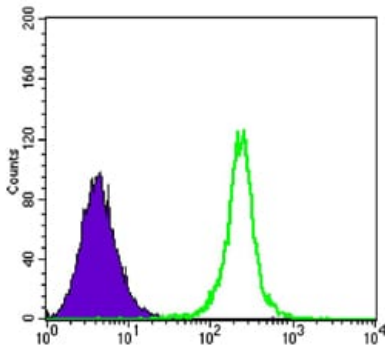
MCF-7 (1)、Jurkat (2)、HeLa (3)、HEK293 (4)、A549 (5) 細胞溶解物に対する SIRT1 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



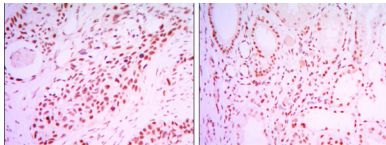
L1210(1)、F9、(2)、HeLa(3)細胞溶解物に対する SIRT1 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



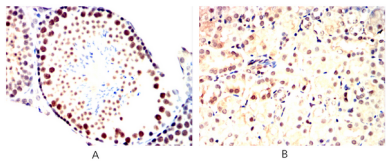
SIRT1 マウス mAb (緑) を用いた NTERA-2 細胞の免疫蛍光染色。赤: アクチンフィラメントを Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識。



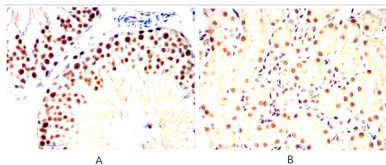
SIRT1 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (紫) を使用した K562 細胞のフローサイトメトリー分析。



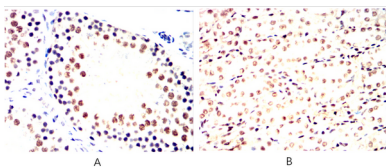
DAB 染色による SIRT1 マウス mAb を使用した、パラフィン包埋ヒト肺癌組織 (左) と腎臓癌組織 (右) の免疫組織化学分析。



SIRT1 マウス mAb と DAB 染色を使用した、パラフィン包埋マウス精巣 (A) マウス腎臓 (B) の免疫組織化学分析。



SIRT1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ラット脾臓 (A) とラット肝臓 (B) の免疫組織化学分析。



SIRT1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ウサギ脾臓 (A) ウサギ肝臓 (B) の免疫組織化学分析。